（別紙様式4）

令和8年6月30日

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地
東京医薬看護専門学校	1983/12/23	須田　英明	〒　134-0084 （住所）　東京都江戸川区東葛西6丁目16番2号 （電話）　03-3688-6161
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地
学校法人滋慶学園	1983/12/23	浮舟　邦彦	〒　134-0084 （住所）　東京都江戸川区東葛西6丁目16番2号 （電話）　03-5878-3311

分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度
医療	医療専門課程	歯科衛生士科	平成27(2015)年度	－	平成30(2018)年度

学科の目的	多様化する地域住民のニーズ（要望）に応えられるよう、多（他）職種と連携しながら自らの専門性を発揮できる歯科衛生士を養成する。
学科の特徴（取得可能な資格、中退率　等）	【取得目標資格】 歯科衛生士、上級救命講習、コミュニケーションスキルアップ検定、口腔ケア5級認定資格

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入 単位時間：137 単位	単位時間 82 単位（開設）	単位時間 37 単位（開設）	単位時間 20 単位（開設）	単位時間 0 単位（開設）	単位時間 0 単位（開設）

生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数（生徒実員の内数）(B)	留学生割合(B/A)
240 人	200 人	1 人	0 %

就職等の状況

■卒業者数（C）	70	人
■就職希望者数（D）	65	人
■就職者数（E）	64	人
■地元就職者数（F）	57	人
■就職率（E/D）	100	%
■就職者に占める地元就職者の割合（F/E）	88	%
■卒業者に占める就職者の割合（E/C）	93	%
■進学者数	0	人

■その他　6人

（令和　7　年度卒業者に関する令和8年5月1日時点の情報）

■主な就職先、業界等

（令和7年度卒業生）

歯科医院

第三者による学校評価

■民間の評価機関等から第三者評価：　有

※有の場合、例えば以下について任意記載

評価団体：特定非営利活動法人私立専門学校等評価研究機構　受審年月：平成26年4月　評価結果を掲載したホームページURL：https://www.tcm.ac.jp/school/public_info/third_party.html

当該学科のホームページURL

http://www.tcm.ac.jp

企業等と連携した実習等の実施状況（A、Bいずれかに記入）

（A：単位時間による算定）

総授業時数	2,685 単位時間
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	900 単位時間
うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位時間
うち必修授業時数	2,640 単位時間
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	900 単位時間
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0 単位時間
（うち企業等と連携したインターンシップの授業時数）	0 単位時間

（B：単位数による算定）

総授業時数	単位
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	単位
うち企業等と連携した演習の授業時数	単位
うち必修授業時数	単位
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	単位
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	単位
（うち企業等と連携したインターンシップの授業時数）	単位

教員の属性（専任教員について記入）

① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者	（専修学校設置基準第41条第1項第1号）	6 人
② 学士の学位を有する者等	（専修学校設置基準第41条第1項第2号）	1 人
③ 高等学校教諭等経験者	（専修学校設置基準第41条第1項第3号）	0 人
④ 修士の学位又は専門職学位	（専修学校設置基準第41条第1項第4号）	0 人
⑤ その他	（専修学校設置基準第41条第1項第5号）	1 人
計		8 人

上記①～⑤のうち、実務家教員（分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定）の数	6 人

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

（1）教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携に関する基本方

教育課程の編成において、必要となる最新の知識、技術を反映するため、企業・業界団体等の意見を活かし、教育課程の改善並びに改訂を定期的に実施することを目的とする。

（2）教育課程編成委員会等の位置付け

理事会のもとに位置づけて運営を行っている。学校で編成している教育課程を委員会に提示し、委員会で挙げられた意見を参考にしつつ、実践的な専門知識や技術を身につけられるよう教育課程を編成し、理事会の承諾のもと教育課程を決定する。決定された教育課程については、委員会に告知をするとともに継続的に検証を行っていく。

（3）教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和8年4月1日現在

名　前	所　　属	任期	種別
古島　昭博	学校法人滋慶学園　常務理事	令和8年4月1日～令和10年3月31日（2年）	—
岩村　勇	学校法人滋慶学園　運営本部長	令和7年4月1日～令和9年3月31日（2年）	—
須田　英明	東京医薬看護専門学校　学校長	令和8年4月1日～令和10年3月31日（2年）	—
一宮　頼子	東京医薬看護専門学校　副校長	令和8年4月1日～令和10年3月31日（2年）	—
飯野　伸子	東京医薬看護専門学校　副校長	令和8年4月1日～令和10年3月31日（2年）	—
大山　遥	東京医薬看護専門学校　教務部長	令和8年4月1日～令和10年3月31日（2年）	—
堀　延之	東京医薬看護専門学校　教務部長	令和8年4月1日～令和10年3月31日（2年）	—
笈川　あずさ	東京医薬看護専門学校　医療・医薬品バイオ研究学科・バイオデータサイエンス学科	令和7年4月1日～令和9年3月31日（2年）	—
小林　崇典	東京医薬看護専門学校　医療・医薬品バイオ研究学科・バイオデータサイエンス学科	令和7年4月1日～令和9年3月31日（2年）	—
久嶋　香里	東京医薬看護専門学校　化粧品総合学科	令和8年4月1日～令和10年3月31日（2年）	—
大野　光宣	東京医薬看護専門学校　化粧品総合学科	令和8年4月1日～令和10年3月31日（2年）	—
平上　恭弘	東京医薬看護専門学校　医療事務総合学科	令和8年4月1日～令和10年3月31日（2年）	—
河野　花絵	東京医薬看護専門学校　医療事務総合学科	令和7年4月1日～令和9年3月31日（2年）	—
田中　美月	東京医薬看護専門学校　医療事務総合学科	令和8年4月1日～令和10年3月31日（2年）	—
内藤　修治	東京医薬看護専門学校　言語聴覚士科	令和8年4月1日～令和10年3月31日（2年）	—
渡邉　健一	東京医薬看護専門学校　言語聴覚士科	令和8年4月1日～令和10年3月31日（2年）	—
鈴木　まゆ	東京医薬看護専門学校　視能訓練士科	令和8年4月1日～令和10年3月31日（2年）	—
杉﨑　俊則	東京医薬看護専門学校　臨床工学技士科	令和7年4月1日～令和9年3月31日（2年）	—
藤井　昭光	東京医薬看護専門学校　臨床工学技士科	令和8年4月1日～令和10年3月31日（2年）	—
坂口　晃	東京医薬看護専門学校　救急救命士科	令和7年4月1日～令和9年3月31日（2年）	—
渥美　栄一	東京医薬看護専門学校　救急救命士科	令和7年4月1日～令和9年3月31日（2年）	—
福田　昌彦	東京医薬看護専門学校　看護学科	令和7年4月1日～令和9年3月31日（2年）	—
藤田　雅美	東京医薬看護専門学校　看護学科	令和8年4月1日～令和10年3月31日（2年）	—
石見　杏奈	東京医薬看護専門学校　歯科衛生士科	令和8年4月1日～令和10年3月31日（2年）	—
本田　美紀	東京医薬看護専門学校　歯科衛生士科	令和7年4月1日～令和9年3月31日（2年）	—
冨澤　麻友子	東京医薬看護専門学校　歯科衛生士科	令和7年4月1日～令和9年3月31日（2年）	—
野口　考之	医療秘書教育全国協議会　事務局長	令和8年4月1日～令和10年3月31日（2年）	①
鹿沼　亮	IMSグループ　医療法人財団明理会　行徳総合病院　医事課　係長	令和7年4月1日～令和9年3月31日（2年）	③
小泉　理香	CELL株式会社　財務経理部長	令和8年4月1日～令和10年3月31日（2年）	③
安齋　寛	NPO法人　日本バイオ技術教育学会　理事長	令和8年4月1日～令和10年3月31日（2年）	①
吉田　大祐	有限会社　メイユウ商会　専務取締役	令和8年4月1日～令和10年3月31日（2年）	③
矢田　綾香	一般社団法人　日本化粧品検定協会　顧問	令和8年4月1日～令和10年3月31日（2年）	②
長岡　雄一	社会福祉法人　日本盲人社会福祉施設協議会　理事長	令和8年4月1日～令和10年3月31日（2年）	①
丸林　彩子	埼玉医科大学総合医療センター　主任　視能訓練士	令和8年4月1日～令和10年3月31日（2年）	③
近藤　敏哉	医療法人鉄蕉会　亀田総合病院　医療技術部ME室　副室長	令和8年4月1日～令和10年3月31日（2年）	③
井竹　康郎	一般社団法人　千葉県臨床工学技士会　理事	令和8年4月1日～令和10年3月31日（2年）	①
齋藤　健吾	新井クリニック　救急救命士	令和8年4月1日～令和10年3月31日（2年）	③
緒方　毅	国士館大学体育学部スポーツ医科学科　准教授	令和8年4月1日～令和10年3月31日（2年）	②
治田　寛之	千葉県言語聴覚士会　　理事	令和8年4月1日～令和10年3月31日（2年）	①
高添　真吾	医療法人社団武蔵野会TMG宗岡中央病院リハビリテーション科　主任	令和8年4月1日～令和10年3月31日（2年）	③
根本　秀樹	江戸川区歯科医師会　会長	令和8年4月1日～令和10年3月31日（2年）	①
小島　悠乃	医療法人社団フロンティア　やまわき歯科医院　主任 歯科衛生士	令和8年4月1日～令和10年3月31日（2年）	③
板橋　知子	公益財団法人東京都助産師会理事　江戸川区地区会長	令和8年4月1日～令和10年3月31日（2年）	①
内山　真弓	日本医科大学武蔵小杉病院　副看護部長	令和8年4月1日～令和10年3月31日（2年）	③

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
（当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「－」を記載してください。）
①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、
地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）
②学会や学術機関等の有識者
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

（4）教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

（年間の開催数及び開催時期）

年2回 （6月、10月）

（開催日時）

第1回 令和8年 6月19日 13時30分～15時

第2回 令和8年10月23日 13時30分～15時

（5）教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

教育課程編成委員会において、臨床実習における実習の配当、実習時の学生の対応、態度に対し、必要な準備指導が必要というご意見をいただいている。また、求められる歯科衛生士像についてご意見をいただき、カリキュラムに反映をしている。

（別途、以下の資料を提出）

＊ 教育課程編成委員会等の位置付けに係る諸規程
＊ 教育課程編成委員会等の規則
＊ 教育課程編成委員会等の企業等委員の選任理由（推薦学科の専攻分野との関係等）※別紙様式３－１
＊ 学校又は法人の組織図
＊ 教育課程編成委員会等の開催記録

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

（1）実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

患者様への接し方や学んだ知識、手技を実習指導者の指導下で実施し、歯科衛生士に必要な基礎的な職業教育を実践する場として施設を選定している。実習先は、基本的に2人の実習生を配当し、実習を行う。
実習評価として、歯科医師、実習指導担当の歯科衛生士より、実習者の態度・言葉遣い・身だしなみ・知識の習得・技術の修得・実習日誌の記録に対し、企業等からの課題も踏まえ、指導、評価をいただいている。

（2）実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

実習担当教員が、実習期間中に1～2回訪問し、歯科医師、実習指導担当の歯科衛生士から実習生個々の状況についてフィードバックを受け、実習の評価項目に照らし、学修成果を確認する。確認した学修成果から、歯科医師、実習指導担当の歯科衛生士とともに、実習方法、内容を再検討し、より効果的な実習になるよう連携を行う。また、担当教員は、日常的な指導をしつつ、実習指導をいただく担当歯科衛生士と連携し、実習運営を行う。実習評価は、学科で作成した評価表の項目に照らし、1～4点で評価をいただく。実習の単位認定は、病院または施設で作成された評価表ならびに担当教員が実施する実習前後の試験結果と合わせて単位認定を行う。

（3）具体的な連携の例

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
臨地実習Ⅰ	主に一般歯科診療所において担当指導者の指導下で見学や実践を行い、歯科診療の流れや歯科衛生士の役割を学ぶ。	上田歯科医院 水野デンタルクリニック 葛西駅前あなたの歯医者さん 他35施設
臨地実習Ⅱ	主に一般歯科診療所において担当指導者の指導下で見学や実践を行い、これまでの学習を総合的に捉え、知識や手技の実際を認識する。	フォレスト歯科矯正歯科 新津田沼歯科クリニック 行徳TM歯科 他34施設
臨地実習Ⅲ	主に一般歯科診療所において担当指導者の指の下で歯科衛生士業務の実践を行い、歯科衛生過程に則って患者個別の状況に合わせた介入を行う知識や技術を向上させる。希望者は歯科診療所のみならず、保育園や各種社会福祉施設等での実習を通じて、地域住民の様々なニーズに、多職種との連携をもって対応するための知識、技術を学ぶ。	行徳さくら歯科口腔外科 （株）シルバーウッド 銀木犀 にじのいるか保育園南葛西 他43施設
臨地実習Ⅳ	主に一般歯科診療所において担当指導者の指導下で歯科衛生士業務の実践を行い、歯科衛生過程に則って患者個別の状況に合わせた介入を行う知識や技術を向上させる。	たろう歯科医院 やまわき歯科 医療法人社団 尚歯会 他31施設

（別途、以下の資料を提出）
＊　企業等との連携に関する協定書等や講師契約書（本人の同意書及び企業等の承諾書）等

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

（1）推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

学園の研修規程に基づき、教員の指導力の向上、授業力向上、クラス運営力の向上などを目的として研修計画の作成を行う。研修計画については外部機関も活用し、必要な知識や技術を向上できるように体系的に作成を行う。研修実施に際しては、教員個々の現場経験や教育経験、また学園在職期間等を考慮し、それぞれの対象に応じた到達目標を設定し、研修方法や評価指標を的確に定めて実施する。

（2）研修等の実績（令和7年度）

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名：	プロケアとセルフケアをつなぐ	連携企業等：	株式会社　松風
期間：	令和7年8月18日	対象：	本科専任教員
内容	患者さんへのセルフケアの指導法と新たな材料の知識を学ぶ		
研修名：	3Dプリントデンチャー	連携企業等：	株式会社　松風
期間：	令和8年3月1日	対象：	本科専任教員
内容	最新の歯科技工技術を学び、スキルアップを目指す		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名：	教務研修　Ⅰ・クラスマネジメント理論編／Ⅱ・実践編	連携企業等：	赤坂　真二
期間：	令和7年10月21日／令和7年12月16日	対象：	本科専任教員
内容	歯科衛生士教育においてチームやクラスの中で自律協働できる人材を育成するためのキャリア教育の考え方と手法を学ぶ		
研修名：	国家試験対策セミナー	連携企業等：	滋慶教育科学研究所
期間：	令和7年6月4日	対象：	本科専任教員
内容	グループ校のスケールメリットを活かした国家試験対策について学ぶ。		

（3）研修等の計画（令和8年度）

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名：	障害のある方への歯ブラシ選択と口腔ケア	連携企業等：	東京都立心身障害者口腔保健センター
期間：	令和8年7月12日	対象：	本科専任教員
内容	患者さんの特性に合った歯ブラシの選択や口腔ケアについて学ぶ		
研修名：	エックス線読影	連携企業等：	公益社団法人　東京都歯科衛生士会
期間：	令和8年7月27日	対象：	本科専任教員
内容	保健指導や歯周基本治療、メインテナンスに役立つ読影のポイントを学ぶ		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名：	歯科衛生士専任教員講習会Ⅱ	連携企業等：	一般社団法人　全国歯科衛生士教育協議会
期間：	令和8年8月3日～7日	対象：	本科専任教員
内容	歯科衛生士教育における教育内容および専任教員のレベルの統一さらにレベルアップを図り、教員としての豊かな人間性を養う		
研修名：	歯科衛生士専任教員講習会Ⅴ	連携企業等：	一般社団法人　全国歯科衛生士教育協議会
期間：	令和8年6月4日	対象：	本科専任教員
内容	専任教員として教育内容を向上させ、歯科衛生士としての能力を充実し更なるレベルアップを図る		

（別途、以下の資料を提出）
＊　研修等に係る諸規程
＊　研修等の実績（推薦年度の前年度における実績）
＊　研修等の計画（推薦年度における計画）

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

（1）学校関係者評価の基本方針

自己点検・評価結果について学校職員以外の関係者による評価を行うため、各校に学校関係者評価委員会を設置する。学校関係者評価委員会は、自己点検・評価結果の客観性・透明性を高め学校の利害関係者の学校運営への理解促進や連携協力による学校運営の改善を目的とする。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	(1)教育理念・目的・育成人材像
(2)学校運営	(2)運営方針・事業計画・システム
(3)教育活動	(3)教育目標・カリキュラム体系・成績評価・資格取得
(4)学修成果	(4)就職率・資格取得率・社会的評価
(5)学生支援	(5)就職指導・生活支援・経済的支援
(6)教育環境	(6)施設設備・学外実習・安全管理
(7)学生の受入れ募集	(7)募集活動・入学選考・学納金
(8)財務	(8)予算・収支計画・情報公開
(9)法令等の遵守	(9)法令遵守・個人情報保護・自己点検・自己評価
(10)社会貢献・地域貢献	(10)社会貢献・地域貢献・ボランティア活動
(11)国際交流	(11)国際交流・留学生

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会で得た評価に基づき、校内の自己点検委員会で次年度の重点項目について見当を行う。検討した事項について令和9年1月の運営会議に諮り、2月下旬までに次年度の重点項目を決定し、事業計画に反映させ次年度の学校運営を行っていく。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和8年4月1日現在

名　前	所　　属	任期	種別
橋本　敦	一般社団法人　TMG本部	令和8年4月1日～令和10年3月31日(2年)	業界代表
古川　哲也	医療法人柏葉会　柏戸病院	令和8年4月1日～令和10年3月31日(2年)	業界代表
手塚　平	株式会社 粘土科学研究所	令和8年4月1日～令和10年3月31日(2年)	業界代表
嶋本　智明	株式会社 コクミン	令和8年4月1日～令和10年3月31日(2年)	業界代表
鈴木　隆英	成田高等学校	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	高校関係者代表
鈴木　信良	江戸川区葛西仲町町会	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	地域代表
柴崎　由美子	本校看護学科 在校生保護者	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	保護者代表
加藤　亮	医療法人社団 同愛会病院	令和8年4月1日～令和10年3月31日(2年)	卒業生代表

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
(例)企業等委員、PTA、卒業生、校長等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他(　　))

URL:　https://www.tcm.ac.jp/school/public_info/info.html

公表時期:　令和8年6月30日

(別途、以下の資料を提出)

＊ 学校関係者評価委員会の企業等委員の選任理由書(推薦学科の専攻分野との関係等)※別紙様式3－2

＊ 自己評価結果公開資料

＊ 学校関係者評価結果公開資料(自己評価結果との対応関係が具体的に分かる評価報告書)

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学校の教育活動の取り組みについて社会に対する説明責任を果たすとともに、構成で透明性の高い運営を推進し、教育活動の室の向上や社会全体からの信頼の獲得に資することを目的とする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校の概要、目標及び計画
(2)各学科等の教育	各学科等の教育
(3)教職員	教職員組織
(4)キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育・実践的職業教育
(5)様々な教育活動・教育環境	様々な教育活動・教育環境
(6)学生の生活支援	学生の生活支援
(7)学生納付金・修学支援	学費一覧
(8)学校の財務	学校の財務
(9)学校評価	学校評価
(10)国際連携の状況	国際連携の状況
(11)その他	防災

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他( ))

URL: https://www.tcm.ac.jp/school/public_info/info.html
https://www.tcm.ac.jp/admissions/tuition.html

公表時期: 令和8年6月30日

(別途、以下の資料を提出)

＊ 情報提供している資料

(備考)

・用紙の大きさは、日本産業規格A4とする(別紙様式1－2、2－1、2－2、3－1、3－2、4、5、6、7、8についても同じ。)。

（別紙様式１－２）

授業科目等の概要

	（医療専門課程　歯科衛生士科）																	
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			生物学 Biology	人体構造の最小単位である細胞と各種の役割について理解し、生命の成り立ちについて理解を深める。	1前	15	1	○			○			○	
2	○			化学 Chemistry	基本的な化学的知識を整理し、科学的思考を身に付ける。	1前	15	1	○			○			○	
3	○			英会話 English Conversation	英語を通して異文化に対する理解を深め、歯科医院に来院する外国人の患者に安心して受診していただくために必要なコミュニケーションを身に付ける。	1後	15	1	○			○			○	
4	○			歯科医療倫理学 Dental Medical Ethics	医療人として必要な倫理観について理解し、常に患者を思いやる気持ちで、医療に臨む姿勢を身に付ける。	1前	15	1	○			○			○	
5	○			コミュニケーション論 Communication Theory	コミュニケーション能力の「聞く」「話す」「読む」「書く」の能力を向上させる。患者の気持ちを読み取り、安心を与えられる言葉かけで、信頼関係を構築できるスキルを修得する。	1後	30	2	○			○			○	
6	○			キャリアデザインⅠ Career Design Ⅰ	自己理解と他者理解の大切さを知り、協働するための基礎を学ぶ。行動科学を用いてセルフコントロールとマネージメントを学ぶ。	1全	30	2	○			○		○		
7	○			キャリアデザインⅡ Career Design Ⅱ	自己理解と他者理解を深め、協働するための基礎を学ぶ。臨床の場を想定し、演習形式で自分の行動を考えることで身構え・気構え・心構えといった態度を修得する。	1後	15	1	○			○		○		
8	○			キャリアデザインⅢ Career Design Ⅲ	臨床の場で学んだことを振り返り、自分の課題発見を行う。将来、歯科衛生士となった際のキャリアをデザインする。	2全	30	2	○			○		○		
9	○			キャリアデザインⅣ Career Design Ⅳ	臨床の場で学んだことを振り返り、自分の課題発見を行う。将来、歯科衛生士となった際のキャリアをデザインする。	2後	15	1	○			○		○		
10	○			キャリアデザインⅤ Career Design Ⅴ	将来、歯科衛生士となった際のキャリアをデザインする。	3全	30	2	○			○		○		
11	○			一般解剖学 （組織発生学含む） General Anatomy	人体の構造（骨格、筋肉、脈管系、神経系、内臓系）と機能について体系的に理解し、歯科口腔領域との関連性について学ぶ。	1前	30	2	○			○			○	

	（医療専門課程　歯科衛生士科）																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
12	○			生理学 Physiology	人体の全身における諸機能について理解し、歯科口腔領域との関連性について学ぶ。	1前	15	1	○			○			○	
13	○			栄養学 Nutritional Science	生体内における化学反応(呼吸、消化、内分泌系等)について学び、生体維持のしくみを理解する。生命維持に必要な栄養摂取と口腔疾患との関係を学ぶ。	1前	15	1	○			○			○	
14	○			口腔解剖学(歯牙解剖学含む) Oral Anatomy	顎・顔面・口腔領域に特化した組織や器官の構造と機能について理解する。また、各種歯牙の形態、構造、機能について理解し、立体的再現を修得する。	1後	30	2	○			○			○	
15	○			口腔生理学 Oral Physiology	口腔領域に特化した口腔の諸機能について学ぶ。	1後	30	2	○			○			○	
16	○			生化学・口腔生化学 Biochemistry and Oral biochemistry	口腔領域に特化した生化学、特に唾液の化学構造、う蝕の発生進行に関わる化学反応や摂食嚥下機能に関わる仕組みについて学ぶ。	1後	15	1	○			○			○	
17	○			病理学 Pathology	全身や口腔の組織に発生する疾病の成り立ちから治癒に至るしくみを理解する。	1後	30	2	○			○			○	
18	○			薬理学 Pharmacology	薬物の薬理作用を理解し、安全かつ効果的に使用するための知識を学ぶ。また、歯科医療に用いられる各種薬剤についても学ぶ。	1後	30	2	○			○			○	
19	○			微生物学 Microbiology	微生物全般の基礎的な知識を理解し、微生物が引き起こす全身疾患ならびに歯科口腔領域に特化した疾患について理解する。	1後	30	2	○			○			○	
20	○			口腔衛生学Ⅰ Oral Health Ⅰ	口腔の健康を保持増進するための意義とその手法について、各種法令や科学的根拠を裏付けながら学ぶ。	1後	30	2	○			○		○		
21	○			口腔衛生学Ⅱ Oral HealthⅡ	口腔の健康を保持増進するための意義とその手法について、各種法令や科学的根拠を裏付けながら学ぶ。	2前	30	2	○			○		○		
22	○			衛生学・公衆衛生学 Hygiene /Public Health	地域社会における疾病の予防、身体的、精神的機能の健康の保持増進をはかる手法と社会的仕組みを学ぶ。	1後	30	2	○			○			○	
23	○			衛生行政・社会福祉学 Public Health Administration / Social Service	衛生業務、医療に関わる各種法令と社会的仕組みとの関わりを学ぶ。	3前	30	2	○			○			○	

	（医療専門課程　歯科衛生士科）																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
24	○			保健情報統計学 Hygiene statistics	口腔保健に関係する統計から社会全体の流れや傾向を学ぶ。	3前	15	1	○			○			○	
25	○			歯科衛生学総論 Introduction to dental hygiene	歯科医療業界の歴史やトレンドを学び、歯科衛生士業務や役割について学ぶ。また、将来像を明確にしモチベーションを向上する。	1前	15	1	○			○		○		
26	○			歯科臨床概論 Introduction to Clinical Dentistry	歯科疾患ならびに歯科医療の概要を学び、診療の流れとそれに関わる歯科衛生士の役割を理解する。	1前	15	1	○			○			○	
27	○			保存修復学 Conservation restoration science	歯牙の硬組織における疾患の修復方法について学ぶとともに、その治療における歯科衛生士の役割と業務について学ぶ。	2前	15	1	○			○			○	
28	○			歯内療法学 Endodontic Therapy	歯牙の硬組織における疾患の歯内療法について学ぶとともに、その治療における歯科衛生士の役割と業務について学ぶ。	2前	15	1	○			○			○	
29	○			歯周治療学 Periodontics	歯周組織における疾患の原因、診断、治療、予防の方法について学ぶとともに、その治療における歯科衛生士の役割と業務について学ぶ。	2前	30	2	○			○			○	
30	○			歯科補綴学 Prosthodontics	口腔領域において喪失した機能を補う方法や、人工物の作成過程について理解するとともに、歯科衛生士の役割と業務について学ぶ。	2前	30	2	○			○			○	
31	○			口腔外科学 Oral Surgery	口腔領域の外科的処置を必要とする疾患ならびに傷病の原因、診断、治療、麻酔の方法について学ぶとともに、その治療における歯科衛生士の役割と業務について学ぶ。	2前	30	2	○			○			○	
32	○			歯科放射線学 Dental Radiology	放射線の基本的知識を正しく理解し、歯科医療におけるエックス線撮影補助について学ぶ。また、歯科疾患予防において必要なエックス線画像の読影方法を修得する。	2前	15	1	○			○			○	
33	○			小児歯科学 Pedodontics	発育期における歯科口腔領域の特徴と、小児の全身的、心理的特徴を学ぶとともに、その治療における歯科衛生士の役割と業務について学ぶ。	2前	30	2	○			○			○	
34	○			歯科矯正学 Orthodontic	矯正治療が必要な病態について理解し、診断、治療、予後における歯科衛生士の役割とその業務について学ぶ。	2前	30	2	○			○			○	
35	○			高齢者歯科学 Dental Care for Aged	高齢者の身体的、心理的特徴ならびに歯科口腔領域における特徴を理解し、その歯科治療における歯科衛生士の役割と業務について学ぶ。	2後	30	2	○			○			○	

	（医療専門課程　歯科衛生士科）																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
36	○			障害者歯科学 Special Needs Dentistry	様々な心身障害や疾病について学び、障害者の心身的特徴を理解し、歯科治療における歯科衛生士の役割と業務について学ぶ。	2後	30	2	○			○			○	
37	○			歯科予防処置論Ⅰ Prophylactic Treatment Ⅰ	歯科二大疾患（う蝕・歯周病）の予防に必要な知識ならびに予防機序を学び、その処置（主として予防的歯石除去）に関わる技術を修得する。主にマネキン上での操作ができる。	1前	60	4		○		○		○	△	
38	○			歯科予防処置論Ⅱ Prophylactic Treatment Ⅱ	歯科二大疾患（う蝕・歯周病）の予防に必要な知識ならびに予防機序を学び、その処置（主として予防的歯石除去）に関わる技術を修得する。実際の患者を想定した操作ができる。	1後	60	4		○		○		○	△	
39	○			歯科予防処置論Ⅲ Prophylactic Treatment Ⅲ	歯科二大疾患（う蝕・歯周病）の予防に必要な知識ならびに予防機序を学び、その処置（主としてう蝕予防）に関わる技術を修得する。実際の患者を想定した操作ができる。	2前	60	4		○		○		○	△	
40	○			歯科衛生学実践 Dental Hygiene Practice	歯科衛生士の3大業務を総合的に学び、プロフェッショナルケアとホームケアのサイクルを回していくことで口腔清掃の維持ができることを体現する。また、歯科衛生過程のサイクルを理解し、長期的なケアプランを立案し実践する。	3前	60	4		○		○		○	△	
41	○			歯科保健指導論Ⅰ Dental Hygiene Instruction Ⅰ	患者の健康に関わり一員としての責任を感じながら歯科衛生士の業務を学ぶ。口腔清掃用具の名称、用途、特徴等を深く学び、どのような方に使用したら効果的かを考察できる。	1全	45	3		○		○		○	△	
42	○			歯科保健指導論Ⅱ Dental Hygiene Instruction Ⅱ	健康的な生活や人体の状況を理解し、ライフステージやライフスタイル、個人が抱える問題に適した歯科保健行動の変容を促す知識、技術を修得する。	1後	30	2		○		○		○	△	
43	○			歯科保健指導論Ⅲ Dental Hygiene Instruction Ⅲ	集団指導、個人指導とそれぞれの場面において対象者に則した歯科保健指導を行う。適した媒体の作成を通じて対象者理解を深める。	2前	30	2		○		○		○	△	
44	○			歯科保健指導論Ⅳ （歯科衛生過程含む） Dental Hygiene Instruction Ⅳ	歯科衛生士が行う口腔衛生管理を科学的根拠に基づき、実践できるように学問として学ぶ。	2前	30	2		○		○		○	△	
45	○			歯科診療補助論Ⅰ Assisting for Dental Practice Ⅰ	歯科診療における患者、術者双方の安全確保を前提とし、診療の流れに則した歯科診療の補助を行うための知識、技術を修得する。	1前	60	4		○		○		○	△	
46	○			歯科診療補助論Ⅱ Assisting for Dental Practice Ⅱ	歯科材料の取り扱いを通じて、歯科診療の多様性を感じ、各種材料の特徴や正しい操作法を学ぶ。	1後	60	4		○		○		○	△	
47	○			歯科診療補助論Ⅲ Assisting for Dental Practice Ⅲ	歯科診療の流れから歯科衛生士の役割を学び、適切な介助、補助を修得する。臨床実習に備え、基礎的な動きを学ぶ。	2前	60	4		○		○		○	△	

	（医療専門課程　歯科衛生士科）																	
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
48	○			医療安全学（臨床検査含む） Medical Safety Science	患者、術者双方にとって安全な歯科医療現場の環境を整え、医療事故を未然に防ぐための知識と技術を修得する。	2前	15	1	○			○			○	
49	○			歯科材料学 Dental materials science	歯科で取り扱う材料について、特徴や使用方法を実践的に学び、操作できることを目指す。	1後	15	1	○			○			○	
50	○			臨地実習Ⅰ Clinical TrainingⅠ	主に一般歯科診療所において担当指導者の指導の下に見学や実践を行い、歯科診療の流れや歯科衛生士の役割を学ぶ。	2後	180	4			○		○			○
51	○			臨地実習Ⅱ Clinical TrainingⅡ	主に一般歯科診療所において担当指導者の指導の下に見学や実践を行い、これまでの学習を総合的に捉え、知識や手技の実際を認識する。	2後	270	6			○		○			○
52	○			臨地実習Ⅲ Clinical TrainingⅢ	主に一般歯科診療所において担当指導者の指導の下で歯科衛生士業務の実践を行い、歯科衛生過程に則って患者個別の状況に合わせた介入を行う知識や技術を向上させる。	3前	270	6			○		○			○
53	○			臨地実習Ⅳ Clinical TrainingⅣ	主に歯科大学病院、保育園、社会福祉施設等での実習を通じて、地域住民の様々なニーズに対応するための知識、技術を多職種との連携を図りながら学ぶ。	3後	180	4			○		○			○
54	○			審美歯科 Cosmetic Dentistry	ホワイトニングやセラミック素材等を用いて、専ら審美的回復を目的とした治療法について学び、その過程における歯科衛生士の役割と業務について学ぶ。	2後	15	1	○			○			○	
55	○			インプラント Implantation	歯科インプラント治療に用いられる各種器材の保管、管理、術式における衛生管理等について学び、その治療における歯科衛生士の役割と業務について学ぶ。	2後	15	1	○			○			○	
56	○			口腔ケア Oral Health Care	口腔清掃を目的とした器質的口腔ケアについての理論と技術を学ぶとともに、口腔ケア5級認定試験合格を目指す。	2前	15	1	○			○			○	
57	○			歯科介護学 Dental care	高齢者の特徴を全身、口腔の両面から把握し、在宅診療時に適切な摂食嚥下機能訓練ができることを目指す。	3前	15	1	○			○			○	
58	○			歯科衛生総合演習Ⅰ （基礎科目系） General dental hygiene exerciseⅠ	基礎科目の総復習を科目横断型で学び理解を深める。臨床現場で見てきたことをベースに主体的に学ぶ。	3後	60	4	○			○		○	△	
59	○			歯科衛生総合演習Ⅱ （臨床科目系） General dental hygiene exerciseⅡ	歯科診療科目の総復習を科目横断型で学び理解を深める。臨床現場での実際の治療、処置をベースに主体的に学ぶ。	3前	75	5	○			○		○	△	

	（医療専門課程　歯科衛生士科）																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
60	○			歯科衛生総合演習Ⅲ （歯科衛生士業務系） General dental hygiene exerciseⅢ	歯科衛生士業務系の総復習を学問として学ぶ。臨床現場で見てきたものや取り扱ったものについてを主体的に学ぶ。	3後	75	5	○			○		○	△	
61	○			歯科現場学 Dental field experience	地域貢献プログラムとして実際に学生が企画、運営を行う。歯の健康教育を地域住民にすることで講義で学んだ知識や技能の定着をする。	1後	30	2	○			○		○		
62		○		ホワイトニング whitening	多様化する対象者のニーズに応えることができる歯科衛生士を目指す。接遇や術前・術後の変化をメカニズムとともに学ぶ。	1後	15	1	○			○			○	
63		○		小児食育 children food education	多様化する対象者のニーズに応えることができる歯科衛生士を目指す。食べることの喜びやバランス良く食べることの大切さを学ぶ。	1後	15	1	○			○			○	
64		○		歯ならびコーディネート dentition coordination	多様化する対象者のニーズに応えることができる歯科衛生士を目指す。整った歯並びが与える人への印象の違いを学ぶ。	1後	15	1	○			○			○	
合計							2685	139								単位時間

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件： 当該学年に取得すべき科目を全て履修し、評価認定されたものが卒業できる。	１学年の学期区分	2 期
履修方法： 本校が定める所定の科目授業に出席し、成績評価をおこなう。	１学期の授業期間	24 週

（留意事項）

１　一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

２　企業等との連携については、実施要項の３（３）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。